

ヤングケアラー支援に係る調査票【学校用】

調査へのご協力をお願い

「ヤングケアラー」とは、本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことを指します。

＜こんな人がヤングケアラーです（イメージ）＞



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもに世話をしている



障がいや病気のある子どもに世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

（ 出典 一般社団法人日本ケアラー連盟 ）

- ◎ヤングケアラーの方には様々な負担があるにも関わらず、社会的に十分理解されているとは言えず、悩みを抱えたまま生活している方も少なくありません。
- ◎道ではこのようなことを踏まえ、ヤングケアラーの方々を支援していくための施策を検討することにしました。
- ◎施策の検討に当たっては、できるかぎり皆様の実態や御意見を反映させたいと考え、この度道内の中学校・高等学校を対象に実態調査を行うこととしました。ぜひ調査へのご協力をお願いします。
- ◎原則、各問においては、特別な記載がない限り調査票記入時点の状況を記載いただくとともに、該当番号・項目を選択又は記述での回答をお願いします。

調査方法

次の URL にアクセスし、アンケートフォームに直接回答を入力してください。

令和3年8月27日（金）までに入力をお願いします。

○公開 URL <https://www.harp.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=pc3mf3bF>

○短縮 URL <https://www.harp.lg.jp/pc3mf3bF>

○QR コード



注意事項

- ◎ 同じ学校が2回以上回答しないよう、十分注意してください。
- ◎ 本調査は、60分間通信がない（操作がない）場合、自動的にタイムアウトとなり、それまで入力した内容が破棄されます。ご記入にお時間がかかる場合は、一時保存をご利用ください。

【入力した内容の一時保存と入力の再開について】

- ・ 画面下部にある、一時保存のボタンをクリックしてください。
- ・ メールアドレスとパスワードの入力を求められますので、ご自身のメールアドレス（パソコンまたは携帯電話）と、ご自身で決めたパスワードを入力してください。
- ・ 指定したアドレスに、新たなURLが記載されたメールが届きます。
- ・ 新たなURLを開き、パスワードを入力することで、調査を再開することができます。

この調査に関するお知らせ

- ◎ 調査は無記名で行います。
- ◎ 集計はデータを統計的に処理して行いますので、学校名や生徒が特定されることはありません。
- ◎ 集計結果は道のホームページなどで公表します。調査結果は今後のヤングケアラー支援施策のために活かしてまいります。

（お問い合わせ先）

北海道保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課 児童相談係担当

電 話：011-204-5237

メール：hofuku.kodomo1@pref.hokkaido.lg.jp

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

（本調査票のうち、学校の体制等に関するお問い合わせ先）

北海道教育庁学校教育局 生徒指導・学校安全課 生徒指導（問題行動等）係

電 話：011-204-5887

メール：seitoidou.anzen@pref.hokkaido.lg.jp

※ 回答いただく調査の内容は下記のとおりです。

実際には、パソコン上から Web で回答いただきます。

こちらは見本用の調査票であり、実際の Web 上のレイアウトとは一部異なるところがありますので、あらかじめご承知願います。

A. 基本情報

問 1 ご回答された方の役職をお教えてください。(あてはまる番号 1 つを選択)

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 主幹教諭・主任 (具体的に: _____)
4. 養護教諭
5. スクールカウンセラー (SC)
6. その他 (_____)

問 2 貴校の学校区分をお教えてください。(あてはまる番号 1 つを選択)

(高等学校の場合は、①及び②の該当するものも選択)

1. 中学校
2. 中等教育学校
3. 高等学校 → ① 課程: 全日制・定時制・通信制
② 単位制の有無: あり・なし

問 3 貴校の所在地(振興局名)をお教えてください。

(_____) (総合) 振興局管内

問 4 中学校については中学 2 年生、高等学校については高校 2 年生、中等教育学校にあっては、相当する年次の生徒数についてお教えてください。(令和 3 年 5 月 1 日時点)

(_____) 人

B. 支援が必要だと思われる子どもへの対応についてお伺いします。

問 5 SSW (スクールソーシャルワーカー)、SC (スクールカウンセラー) の派遣・配置状況をお伺いします。

(1) SSW の派遣・配置状況 (あてはまる番号 1 つを選択)

1. 週に 2~3 回以上派遣・配置されている
2. 週に 1 回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. その他 (_____)

(2) SCの派遣・配置状況(あてはまる番号1つを選択)

1. 週に2~3回以上派遣・配置されている
2. 週に1回程度派遣・配置されている
3. 月に数回以下で派遣・配置されている
4. 要請に応じて派遣される
5. その他 ()

**問6 下記のような状態の子どもについて、校内で情報を共有しているケースはありますか。
(あてはまる番号すべてを選択)**

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを家庭で用意してもらえない
10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
12. 諸納金の支払いが遅れる、未払い
13. 居眠りが多い
14. 非常に疲れている様子がある
15. その他 ()

問7 問6のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。(あてはまる番号1つを選択)

1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問8へ
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問8へ
3. 個別に対応している(決まった検討体制はない) →問9へ

問8 問7で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、又は「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

(1) 情報共有・対応の検討の方法等(あてはまる番号すべてを選択)

1. スクリーニング会議(※) →問8(a)へ
2. ケース会議 →問8(b)へ
3. 生徒指導部・委員会など →問8(c)へ
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有

5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など子どもの抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置

6. その他 () →問8 (d) へ

※ すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

「1.スクリーニング会議」、「2.ケース会議」、「3.生徒指導部・委員会など」、「6. その他」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。また、会議の開催頻度はどれくらいですか（あてはまる欄に番号を選択）

	参加者	開催頻度
問8 (a) スクリーニング会議		
問8 (b) ケース会議		
問8 (c) 生徒指導部・委員会など		
問8 (d) その他		

＜参加者：選択肢＞

1. 校長	2. 副校長・教頭
3. 学年主任	4. 担任教諭
5. 生徒指導担当	6. 養護教諭
7. SSW	8. SC
9. 外部の関係機関 ()	
10. その他 ()	

＜頻度：選択肢＞

1. 2週間に1回以上	2. 月に1回程度
3. 半年に1回程度	4. 年に1回程度
5. 必要な時に随時開催	

問9 問7で「3. 個別に対応している」と回答した方にお伺いします。問7のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えてください。

--

問10 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

	体制（1つを選択）	関係機関（あてはまる数字を記入）
(1)要保護児童対策地域協議会の登録ケース	1. ある → 2. 特にない	
(2)不登校のケース	1. ある → 2. 特にない	
(3)それ以外	1. ある → 2. 特にない	

<関係機関：選択肢>

- | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----------|
| 1. 市区町村教育委員会 | 2. SSW | |
| 3. 市区町村の福祉部門（4を除く） | 4. 市区町村の保健部門 | |
| 5. 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門 | | |
| 6. 教育支援センター（適応指導教室） | 7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設 | |
| 8. 児童相談所 | 9. 民生委員 | 10. 医療機関 |
| 11. 警察や刑事司法関係機関 | 12. その他（ | ） |

C. ヤングケアラーについてお伺いします。

問 11 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。（あてはまる番号1つを選択）

1. 言葉を知らない →問 14 へ
2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問 14 へ
3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない →問 14 へ
4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している →問 12 へ

問 12 問 11で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。（あてはまる番号1つを選択）

1. 把握している →問 13 へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問 14 へ
3. 該当する子どもはいない（これまでもいなかった） →問 14 へ

問 13 問 12で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。（あてはまる番号すべてを選択）

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3. その他（

問 14 ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

※【ヤングケアラーの定義】～本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども。

ヤングケアラーの定義を踏まえて、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。（あてはまる番号1つを選択）

1. いる →問 15 へ
2. いない →問 17 へ
3. 分からない →問 16 へ

	5. 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門 6. 教育支援センター（適応指導教室） 7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設 8. 児童相談所 9. 民生委員 10. 医療機関 11. 警察や刑事司法関係機関 12. その他（ ）
要保護児童対策地域協議会への通告ルート	1. 市区町村教育委員会経由 2. SSW 経由 3. 学校から直接連絡 4. その他（ ）
学校で行った支援（要対協との連携も含めて）	
支援した結果、子どもの変化	
学校から見た支援の難しさ	

2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

性別（1つを選択）	1. 女性 2. 男性 3. その他												
学年（1つを選択）	1. 中学（ ）年 2. 高校（ ）年												
学校生活の状況（あてはまる番号すべてを選択）	1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い 8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 諸納金が遅れる、未払い 13. 居眠りが多い 14. 非常に疲れている様子がある 15. その他（ ）												
家族構成（あてはまる番号すべてを選択）	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他（ ）												
家庭でのケアの状況（あてはまる番号すべてを選択）	ケアの状況を把握しているか → はい・いいえ 「はい」の場合、ケアの具体的な内容												
	<table border="1"> <tr> <td>a) ケアを必要としている人</td> <td>b) ケアを必要としている人の状況</td> </tr> <tr> <td>1. 母親</td> <td>1. 高齢（65歳以上）</td> </tr> <tr> <td>2. 父親</td> <td>2. 幼い</td> </tr> <tr> <td>3. 祖母</td> <td>3. 要介護（介護が必要な状態）</td> </tr> <tr> <td>4. 祖父</td> <td>4. 認知症</td> </tr> <tr> <td>5. きょうだい</td> <td>5. 身体障がい</td> </tr> </table>	a) ケアを必要としている人	b) ケアを必要としている人の状況	1. 母親	1. 高齢（65歳以上）	2. 父親	2. 幼い	3. 祖母	3. 要介護（介護が必要な状態）	4. 祖父	4. 認知症	5. きょうだい	5. 身体障がい
a) ケアを必要としている人	b) ケアを必要としている人の状況												
1. 母親	1. 高齢（65歳以上）												
2. 父親	2. 幼い												
3. 祖母	3. 要介護（介護が必要な状態）												
4. 祖父	4. 認知症												
5. きょうだい	5. 身体障がい												

	6. その他 ()	6. 知的障がい 7. 発達障がい 8. 精神疾患 (疑い含む) 9. 依存症 (疑い含む) 10. 8、9 以外の病気やけが 11. その他 () 12. わからない
	c) ケアの内容	
	1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) 4. 外出の付き添い (買い物、散歩など) 5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手や遊び相手になるなど) 7. 見守り 8. 通訳 (日本語や手話など) 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. 医療的ケア (たんの吸引や経管栄養の管理など) 12. 家計のサポート (家計を支えるためにアルバイトや労働をするなど) 13. その他 () 14. わからない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ		
この世帯がどのような機関とつながっていたか	1. 医療機関や訪問医療 2. 福祉サービス 3. その他 () 4. わからない	
外部機関へのつながり方	1. 市区町村教育委員会経由 2. SSW 経由 3. 学校から直接連絡 4. その他 ()	
学校が直接連携した機関 (つないだ機関)	1. 市区町村教育委員会 2. SSW 3. 市区町村の福祉部門 (4を除く) 4. 市区町村の保健部門 5. 教育支援センター (適応指導教室) 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設 7. 児童相談所 8. 民生委員 9. 医療機関 10. その他 ()	
学校で行った支援 (つながり先との連携も含めて)		
支援した結果、子どもの変化		

学校から見た 支援の難しさ	
------------------	--

(4) (2) で「3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

ア 理由	
イ 対応方法	

(5) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

--

(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

--

(7) 問 6 の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したのですが、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。

ア ご意見	
イ 変更項目案	
ウ 追加項目案	

<参考：問 6 の選択肢>

<input type="checkbox"/> 学校を休みがちである	<input type="checkbox"/> 遅刻や早退が多い
<input type="checkbox"/> 保健室で過ごしていることが多い	<input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある
<input type="checkbox"/> 身だしなみが整っていない	<input type="checkbox"/> 学力が低下している
<input type="checkbox"/> 宿題や持ち物の忘れ物が多い	<input type="checkbox"/> 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
<input type="checkbox"/> 学校に必要なものを用意してもらえない	<input type="checkbox"/> 部活を途中でやめてしまった
<input type="checkbox"/> 修学旅行や宿泊行事等を欠席する	<input type="checkbox"/> 諸納金が遅れる、未払い
<input type="checkbox"/> 居眠りが多い	<input type="checkbox"/> 非常に疲れている様子がある

問 16 問 14 で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他（ ）

問 17 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号すべてを選択)

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること
(具体的に：)
11. その他 ()
12. 特にない

問 18 ヤングケアラーへの支援に関して自由にご意見をお書きください。

★道では **2021年9月ごろ**に、学校での取り組みについてヒアリングを予定しています。ヒアリングにご協力いただける場合は、学校名をご記入ください。別途ご連絡させていただきます。

所在地	(市・町・村)
学校名	
連絡先	電話： メールアドレス：

以上で調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。